

local rule

面白いラグビー：ルールを身近なものにする

イングランドでスクラムの事故防止についてのルールが議論されている情報は示唆に富んだものです。(参照：西川ラグビーコラム 2006/12/17) IRB でも 2004 年から真剣な試みがなされています。

ラグビーの普及のための方策がいろいろ考えられています。IRB では LRP(Law Reform Project)で easy and simpler の方向で議論がなされています。ルールを身近なものにすることも方策の一つとして重要なことです。具体的には次の3つの事があります。

1. ルールブックの冒頭のラグビー憲章を別冊にする
 2. 日本語訳を再検討して読みやすい分かり易いものにする
 3. ローカルルールの制定によりルールに対する関心を深め正しく守らせる
- それぞれについて考察しましょう。

「憲章を独立別冊にする」

ルールブックはチームに一冊だけというのが普通なのですが、個人用も有用ですし、憲章は一人一人の心の中に常に持ってほしいものです。個人が読むべきであってミーティングで講義するだけではだめです。高校体育の教科書の副読本として活用する価値があります。

ルールブックの構成について列挙比較してみますと問題点が浮かび上がります。

Ireland, Dublin, IRB 発行
Incorporating the Playing Charter
LAWS OF THE GAME RUGBY UNION 2006

Playing Charter
As framed by the international Rugby Board
Introduction
Principles of the Game
Conduct
Spirit
Object
Contest and Continuity
Principles of the Laws
A Sport For All
Maintaining the Identity,
Enjoyment and Entertainment
Application
Conclusion
The Laws of the Game Rugby Union
As framed by the International Rugby BOARD
CONTENTS

日本ラグビーフットボール協会発行のルールブックでは次のようになっています。

IRB ラグビー憲章
序文
目次
1. ラグビーの目的
解説
2. ラグビーの原則
解説
ボールの争奪
攻撃/プレーの継続
防御/ボールの再獲得
多様性
報奨と罰
3. 競技規則運用(レフリング)の規則
ラグビーの目的と原則
公正性

一貫性
アドバンテージ
優先順位
マッチオフィシャルのゲームマネジメント
適用

4. 競技規則制定の原則
 - 安全性
 - 平等な参加機会
 - 独自性の維持
 - プレーの継続
 - プレーする喜びと観る楽しさ
 - スペースの確保/報奨、失敗と罰則
 - 一貫/遵守/簡潔
 - ルールブックの普遍性
- 高専・高校以下のための特別競技規則
その後にルールの条文。

憲章を読んでいない人が多い。目を通した人も内容を理解するに至っていない。
内容が大ききく多すぎる。永すぎる。IRB のルールブックとの比較しても問題点がある。

「日本語訳の再検討」

「ラグビーフットボール」は、「ラグビー」が公認語で公式語になっています。

正確化と内容の熟成化があげられます。日本語として正しい意識であり、現実に即した内容表現（熟成したもの）であることが必要です。

例えば、最初の第1条-1:

最近まで、The surface is grass となっていたのを「表面は草でおおわれている」という訳では、何のことかわからないし、芝生のグラウンドを作る熱意と意欲を起こさせることに繋がらなかったマイナスは大きいものがあります。また、at once と immediately を「直ちに」と同一に考えないで、日本人の特性である俊敏性や瞬発力を生かした継続プレーを引き出す意識付けに生かすことも有用でしょう。

「ローカルルールの制定」

local は地方の、local line(train)や急行に対する各駅停車という内容でつかわれています。地域の問題を、協会が地域の問題をとりあげて検討し、問題解決に有効なルールを制定し実施することによって地域密着の普及を計る意義は大きいものです。これはルールブックの普遍性・憲章に言う普遍性にもとらないものです。結合性の問題であって、国際試合はIRBのルールの元で話し合えばよいのです。プレーヤーたちの身近な問題をとりあげる基本的姿勢は、ルールは競技を楽しむための自分たちのためのものであるという自覚を培う土台であって、ラグビーを愛する心にも通じるものです。

このことは、ラグビーのルールの歴史が物語っています。学校単位や小地域の試合に於けるケースローヤや申し合わせが、意見とともに提起され協議の末にルールなるという過程はRFU設立されてからも同じで、今日、世界的にはIRBがその役目を果たし、各国協会からの提案（申し出）を議論し結論を得て改定するという過程が決まっているのです。

2006.12.26
西川 義行